

(様式例)

## 平成29年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立可茂特別支援学校

学校番号

114

### 自己評価

学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"><li>一人一人が笑顔で主体的に、地域で生活できる力を高める。</li><li>一人一人の可能性を最大限伸ばし、生きる力を育て、社会に自律し、心身共に調和のとれた人間性豊かな児童生徒を育成する。</li></ul>
評価する領域・分野	教育活動・学習活動
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"><li>保護者アンケートにより高評価を得た項目として、「先生と児童生徒が信頼し合って活動を展開している」ことや、「授業や学校行事等を参観する機会を設けて、教育活動について積極的に公開している」ことの2項目が挙げられる。これらのことから現在の授業公開や学校行事等が適切に機能していると考えられる。</li><li>一方で、「実際の授業が児童生徒一人一人の実態に即しているか」、「職員の専門的知識が豊かで教師としての資質を身に付けている」といった項目に対しては厳しい意見もあり、経験の浅い職員が多く、教員研修や教育課程、授業内容の改善に課題があると考えられる。</li></ul>
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"><li>学校が「チーム」となるための各学部、分掌との積極的な連携</li><li>児童生徒を継続的に育てるための個別の教育支援計画・指導計画の再検討</li><li>教職員の授業力の向上</li></ul>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ol style="list-style-type: none"><li>① 内規検討委員会の定期的開催により、現在の内規を現状に即したものに、改める。</li><li>② 進路支援部と連携し、卒業後の支援体制の構築に直結するような支援計画を検討する。</li><li>③ 部教務と学年主任、作業主任が連携し、計画的に授業を観る機会を設定する。</li></ol>
目標の達成に必要な具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"><li>① 職員がより機能的なチームとなるために、組織のあり方や、連携の回り方、物事の進め方など拠り所となるルールが必要である。学校においては「内規」がそれに当たる。H25年度に改定して以来、見直しができているので、現状に即し、潤滑な学校運営につながっているかを観点にして改定を進める。</li><li>② 学校としての「個別の教育支援計画」の目的や活用についての共通理解を図り、より活用につながる様式の見直しをする。進路支援部と連携し、卒業後の支援体制の構築に直結するような支援計画を検討し、今年度中に、新様式での作成をめざす。</li><li>③ 昨年度以上に、日常的な授業交流を図り、お互いに授業力を高め合う職員集団をめざす。部教務と学年主任、作業主任が連携し、意図的に普段の授業を互いに見合う機会を設定する。</li></ol>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"><li>現状に即した内規として改正することができたか。</li><li>教科会を設け、来年度の改善につながる検討ができたか。</li><li>職員間の授業参観はできたか。</li><li>専門性の高い外部講師等の活用ができたか。</li></ul>
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"><li>年間を通して内規検討委員会を行い、内規を改正することができた。</li><li>個別の教育支援計画について、新様式を検討したが、課題を洗い出すこと</li></ul>

	<p>にとどまり、次年度には検討委員会を立ち上げ、30年度の1年間をかけて新様式の完成を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援計画について、小・中学部と高等部では書式が異なる等、学校全体としてのとらえが共有されていないため、継続的な活用ができなかった。</li> <li>教科会の意義、持ち方について、分掌内での検討は進んだが全般的に有効な実施までに至らず、学部間での系統性のある学習内容や教育課程の編成の検討はできなかった。</li> <li>研究情報部と連携し、「生活単元学習」の基礎的な理解が必要であることを確認でき、研究情報部がこうしたことについての職員研修を実施した。</li> <li>芸術教室等、積極的に外部講師、内部職員を活用して、専門性の高い体験活動を実施できた。</li> </ul>
評価の視点	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>個別の教育支援計画、指導計画の作成、検討について全校体制で組織的に取り組むことができたか。</li> <li>内規を見直し、改正できたか。</li> <li>職員間の授業参観が積極的に実施できたか。</li> <li>専門性の高い体験活動を実施できたか。</li> </ul>	<p>(A) B C D</p> <p>(A) B C D</p> <p>A (B) C D</p> <p>(A) B C D</p>
成果・課題	総合評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○個別の教育支援計画、指導計画の作成目的や手順、スケジュール等、職員間の共通理解が深まり、保護者への提示や説明が適切に行えた。</li> <li>○教科会の必要性や検討内容を明確化できた。</li> <li>○職員の授業力の向上、底上げに、互いの授業を見合うことの重要性が確認できた。</li> <li>○専門性の高い外部講師等を活用した体験活動において、児童生徒の普段では見られない好奇心や感動を得る姿が多く見られた。</li> <li>▲個別の教育支援計画様式については改正には至らなかった。</li> <li>▲日常的に授業参観しやすい環境を整える必要がある。</li> </ul>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割分担を明確にした連携強化</li> <li>・個別の教育支援計画の作成のねらい、活用方法の再認識と共通理解</li> <li>・教職員の基礎的な力（授業力）の底上げ</li> </ul>

### 学校関係者評価（平成30年2月20日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの笑顔が溢れ、学校の活気が年々増している。</li> <li>・校内の衛生管理には十分配慮し、教室の換気、室温、教室や廊下・階段などの美化に努めることが望ましい。また、口腔ケアにも配慮が必要である。</li> <li>・外国人の児童生徒が全校の1割を超えており、保護者とのコミュニケーションを如何にとっていくのが課題ではないか。</li> <li>・教室不足ではあるが、学校に工夫がみられる。早期の高等特支の開校を求めたい。</li> </ul>